

流動化剤・標準形I種 フローリックFBP

フローリックFBPは、高いセメント分散性を有するJIS A 6204（流動化剤・標準形I種）に適合する良好な流動化剤です。

フローリックFBPをご使用になりますと、単位水量の少ない硬練りコンクリート（ベースコンクリート）の流動性（スランプ）を大きくでき、コンクリートの品質を改善し施工性が向上します。

ポリカルボン酸系化合物を主成分としており、高機能タイプのAE減水剤や高性能AE減水剤の後添加用流動化剤として使用できます。

特長

- 高い分散性を有し単位水量を低減します。
- コンクリートの硬化物性に影響がなく乾燥収縮や水和熱量を低減します。
- コンクリートの水密性と耐久性を向上します。
- 従来の流動化剤と比較し経過時間に伴うスランプ低下が小さくなります。
- コンクリートの施工性（ポンプ圧送性、締固め性）が向上します。

物性

主成分	ポリカルボン酸系化合物とオキシカルボン酸塩
外観	茶褐色液体
塩化物イオン (Cl ⁻) 量 (%)	0.00*
アルカリ量 (%)	0.4*
密度 (g/cm ³)	1.02 ~ 1.08

(※分析値例)

品質性能試験

JIS A 6204 コンクリート用化学混和剤（流動化剤 標準形）による試験結果

項目		JIS 規定値	試験結果
ブリーディング量の差 (cm ³ /cm ²)		0.1 以下	0.00
凝結時間の差 (分)	始発	- 60 ~ + 90	+55
	終結	- 60 ~ + 90	+50
圧縮強度比 (%)	材齢 7 日	90 以上	97
	材齢 28 日	90 以上	101
長さ変化比 (%)		120 以下	99
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)		60 以上	89
経時変化量 (15 分後)	スランプ cm	4.0 以下	1.5
	空気量 %	± 1.0 以内	0.3

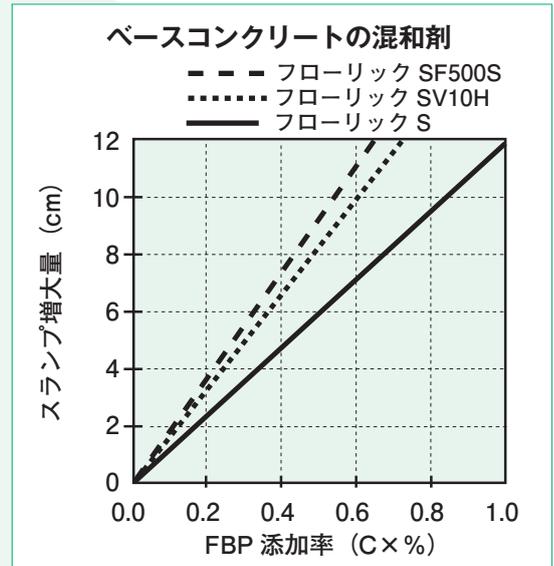


使用方法

フローリック FBP の使用量は、コンクリートの材料・配（調）合・温度・添加時期およびベースコンクリートに使用された混和剤により変化します。

スランプが 1cm 増大するのに必要なフローリック FBP の使用量はセメント質量に対し 0.03 ~ 0.10wt% を目安としてください。

(右図は単位セメント量：320kg/m³ の試験データ掲載)



試験実施例

ベース混和剤	W/C (%)	s/a (%)	単位量 (kg/m ³)		ベースコンクリート		流動化剤 FBP (C × %)	流動化剤添加後	圧縮強度 (N/mm ²)		
			W	C	上段：スランプ (cm) 下段：空気量 (%)				上段：スランプ (cm) 下段：空気量 (%)	上段：ベースコン 下段：(流動化コン)	
					直後	経時変化後*				7日	28日
SV10H	49.4	48.0	158	320	8.0 4.3	←直後添加	0.3	12.5 4.3	38.2 (39.7)	49.5 (50.5)	
SF500S	48.6	50.0	170	350	17.5 4.3	11.0 4.3	0.3	18.5 4.5	41.9 (41.2)	50.8 (51.3)	

※室内試験：90分静置

使用上の注意

- フローリック FBP を添加する場合は、ベースコンクリートのスランプを確認の上、所要量を正確に添加してください。
- 添加方法は、工事の規模によって異なりますが、大きな工事の場合は、計量器および投入装置を設置するようにしてください。
- フローリック FBP は、コンクリート打設直前にトラックアジテータ内のフレッシュコンクリートに添加し攪拌してください。攪拌時間はコンクリートの配（調）合により異なりますので適宜調整してください。

【添加量の計算例】

セメント：320kg/m³ でスランプ 5cm 大きくする場合の例（1cm あたり 0.05% として）
 $320\text{kg/m}^3 \times 5\text{cm} \times 0.05\%/ \text{cm} = 0.80\text{kg/m}^3 \div 1.05 \text{ (FBP 密度)} = 0.76 \text{ g/m}^3$

取扱い上の注意

- フローリック製品が皮膚に付着した場合には、速やかに清水で洗浄してください。
- 飲み込んだ場合には、直ちに吐き出し、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、速やかに清水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- 詳細は、当社の安全データシート(SDS)をご覧ください。

荷 姿

タンクローリ・18kg 缶